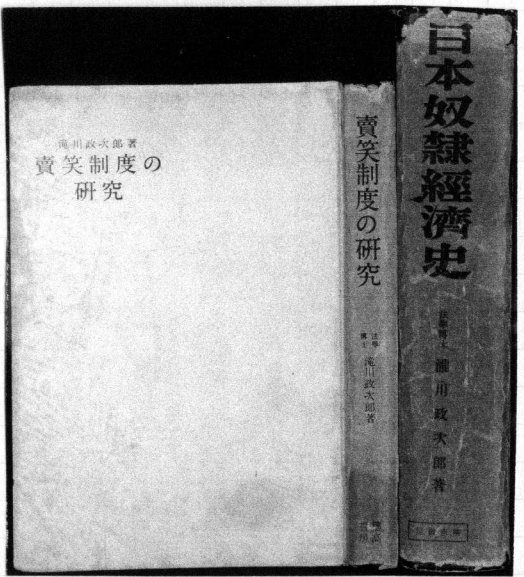


瀧川政次郎 たきがわ まさじろう 法制史學者、法學博士。明治三十年五月(二十六年)大阪生れ、平成四年一月(二十九年)歿(一八九七—一九九二)。第一高等學校を經て、大正十一年東京帝國大學法學部獨法科卒。昭和二年九州帝大教授、五年中央大學教授、十四年滿洲國司法部法學校教授、二十五年國學院大學教授等歴任。この間、めん戦前における、その分野ごとの基本文獻の、一つに数えられる(奈良本辰也)『律令の研究』(昭和八年刊)を著はす。また東京裁判の辯護人も務めた。

著書は他に『法律史話』(昭和七年十月十五日巖松堂書店)、『滿支史說史話』(昭和十四年九月(二十八年)日光書院)、『法律から見たる支那國民性』(昭和十六年五月(二十九年)同文書館)、『法史叢論』(康徳十年九月(二十五年)新京・五星書林)、『日本奴隸經濟史』(昭和二十二年一月(二十五年)清水書房)、『法律話の泉』(昭和二十二年十一月(二十六年)徳高書房)、『日本歴史解題』(昭和二十五年十一月(二十九年)創元社)、『法史叢話』(昭和二十六年五月(三十一年)創元社)、『今日の愛國心』ヒューマン・マガジンの場から(合著、昭和二十七年五月一日(三十二年)二啓社)、『東京裁判』(三十二年)全二冊(上・昭和二十七年八月一日、下・二十八年八月一日(三十二年)白東社)、『人物新日本史』

上代編』(昭和二十八年六月五日明治書院)、『日本社会史』(昭和



二十九年六月十日創立元社「創立文庫」()、
『現代学問のすすめ』(合
著・茅誠司編、昭和二十九年十一月、二十台大蔵出版株式会社)、
『別
嬪と美人』(昭和二十一年七月、二十台往古書店「粹人粹筆」)、
『清せい
笑至味しやうしめ』(昭和二十八年一月、二十五青蛭房)、
『遊女の歴史』(昭
和四十年七月、二十台至文堂「日本歴史新書」)、
『元號考證』(昭和
四十九年六月、二十台永田書房)、
『長谷川半蔵とその生涯と人足寄場』
(昭和五十年十月、二十台朝日新聞社)等。